

而今依逆臣之讒被下非義綸旨惜名之族早討取秀康胤義等可全三代將軍遺跡

〔増鏡十六久米のさう山〕六波羅よりの御おくりの武士さならでも名あるつはものども千葉介貞胤をばじめとしておぼえ異なるかぎり十人撰びたてまつる

〔徒然草上〕高名の木のぼりといひしおのこ人をおきて、たかき木にのぼせて梢をきらせしにいとあやうくみえし程はいふこともなくておる、時に軒だけばかりに成てあやまちすな心しておりよと詞をかけ侍しをかばかりになりては飛おる、ともおりなんいかにかくいふぞと申侍しかば其事に候めくるめき枝あやうき程はをのれがおそれ侍れば申さずあやまちはやすき所になりて必仕ることに候といふ略下

〔伊呂波字類抄女〕面目

〔書言字考節用集九〕眉目本朝俗謂有面

得名譽

〔椿葉記〕又なによりも御がくもんを御さたあるべき事なり一でうのゐんごしゆじやくゐんご三でうの院などことさら大さい御名譽まし／＼て賢王聖代とも申つたへはんべる也

〔日本書紀七〕二十八年二月乙丑朔日本武尊奏平熊襲之狀中天皇於是美日本武之功而異愛

〔日本書紀十七〕七年十二月戊子詔曰朕承天緒獲保宗廟兢兢業業聞者天下安靜海内清平屢致豐

年頻致饒國懿哉摩呂古繼體天皇長示朕心於八方盛哉勾大兄光吾風於萬國日本邕邕名擅天

下秋津赫赫譽重王畿所寶惟賢爲善最樂聖化憑茲遠扇玄功籍此長懸寔汝之力宜處春宮助朕施

仁翼五補闕

〔明月記〕建曆二年十二月三日傳聞第四親王皇御元服來廿二日云々此宮年來有稽古之心

殊富文章才名之譽遍天下

〔古事記上〕大國主神亦名謂大穴牟遲神牟遲亦名謂葦原色許男神色許亦名謂八千矛神亦名